

成蹊会誌39

1974年夏号



五
ら
た

三
ら
く
と

三
ら
く
と

五
ら
く
と

ち
き
ん

か
え
ん

中
え
ん

と
に

深さに驚嘆勉強になった。文科の

クラス会は十月末与謝野、池弘両君の案内で鹿島工業地帯見学旅行、奇しくも石油危機爆発の直前であった。今年の二月には栗林君のお世話で伊東温泉とゴルフコン

べ、七組の夫婦と二人、十六人が参加した。そして三月娘が上智大卒、異君には四年間お世話になった。息子武蔵大学入学、これも尾崎先生の親子二代にわたる御指導のおかげ、成蹊の老師と良友に助けられ、楽しませて貰ったこの一年でした。

渡辺 誠介 (旧高19) 千葉大学

香月支部長をはじめ千大病院の同窓は皆元気に活躍しておられます。私は週一回(火)は駿河台日大病院脳神経クリニックにもいっ

ておりますので何かあれば御連絡下さい。

渡辺 千春 (旧高7) 府中医大 病院

七蹊会誌第二号(卒後四十年を記念して)おかげ様でできあがり、深謝です。

年齢も大部分が還暦を迎えました。第二の人生へスタートです。

めでたし。

小山 忠男 (政経5) 玉川機械 金属

会津での生活も通算六年目に入ろうとしています。磐梯山や白虎隊で有名なのですが、最近寺社廻りをしたところ、更にそれ以前の平安時代の頃の当地の栄えを再認識いたしました。そういう面はあまりPRされていませんが、東北地方は平泉をもって文化のスタートとの一般通念はくつがえされた次第です。未だ俗塵に汚されていらない趣きに又日本を発見した次第です。当地に來られる方は是非御一報下さい。いろいろと案内してあげます。

五箇 正義 (政経14) 三菱信託 銀行

小生も静岡支店に來てから早二年たちました。静岡の成蹊会も発足し、年二回位会合を持ち先輩、後輩とも親しく話をする機会を得まして心強く感じております。

橘 薬 (政経3) 三菱倉庫

兵隊に行つて応召という経験のない小生は、初めての海外の印象はかなりのものだった。最初に着

いたサンフランシスコの入国審査官が如何に大きくて、コワク見えたことか。世界をグルリと廻ると最後のモスクワ空港での物々しい警備も何ら気にならないだけの馴れができてくる。何だかんだといつても神戸で灘の酒を飲む生活が最高である。以上海外印象記。

戸田 光子 (小10)

皆様御元氣のことと存じます。

四月十六日、新日鉄の南山谷寮で池祥会の集りが外村様の御世話でございまして、栗山先生の御元氣な御姿をはじめ二十人程が集り、楽しい一夕でございました。一級下の方はやよい会の御旅行で不参加でございましたが、次回はおつと皆様の御出席をお待ち致しております。

長谷川 一郎 (政経4) 丸紅

那覇支店一年半ノ勤務ヲ終エマシテ昨年四月ヨリ名古屋支社鉄鋼開発室ニテ各種鉄構PROJECTニ取リ組ンデ悪戦苦闘中デス。早イモノデ卒業以來十九年、長女ハ高一、次女ハ小六ト成長シ、逆ニ親父ハ若干クタビレ気味トナリマ

会員 動 静

—ご寄稿について—
今回の会員動静欄には二五七名のご寄稿をいただき厚く御礼申しあげます。

この「会員動静」は年に一回成蹊会誌に掲載しておりますが、原稿のお取扱いは、会員総会(毎年五月下旬開催)出欠席のハガキの一部に会員動静欄を設けご投稿を願っております。毎回好評を博しておりますので、次回には是非玉稿を賜りますよう、お待ちしております。(編集部)

成蹊会 年次報告

谷岡 喜久蔵

昭和四十八年度の事業報告(収支決算)並びに昭和四十九年度の事業計画(収支予算)の詳細については、去る五月二十七日開催の会員総会において、可決承認を得ておりますので本文では、比較的重要と思われる事項についてご報告申しあげます。

一 会員総数 二〇、六九三名(昭和四十九年三月末日現在)

- 1 正会員(会費納入者) 一四、四二二名
- 2 普通会員(会費未納者) 五、九三七名
- 3 特別会員(教職員関係) 三四三名
- 4 名誉会員(学園創立者関係) 一名

成蹊学園創立以来六十二年を経てその卒業生数は約二万名。戦前の卒業生数は少人数(毎年約六十名程度)であったが戦後の学制改革に伴い急膨脹し現在は毎年一、五〇〇名前後の卒業生が新入会員となつてゐる。なお母校には四十三名の卒業生(教員二十八名・職員十五名)が在職している。

二、同窓会 (二つ以上の学校を卒業した者は夫々最終学校へ編入し重複を避けた。)

- 1 池袋実務(中学・専門)同窓会 四〇〇名
- 2 やよい会(女学校) 五五名
- 3 旧制高校同窓会 一、八五五名
- 4 政治経済学部同窓会 四、五五五名
- 5 医歯学進学課程同窓会 三〇〇名
- 6 小学校同窓会 一、一〇〇名
- 7 高等学校同窓会 四、〇〇〇名

- 8 経済学部同窓会 一、八三三名
- 9 工学部同窓会 二、〇〇〇名
- 10 文学部同窓会 二、〇六五名
- 11 法学部同窓会 一、五二二名

三 支部

- 1 北海道支部(札幌)
- 2 東北支部(仙台)
- 3 千葉支部(千葉)
- 4 東海支部(名古屋)
- 5 関西支部(大阪)
- 6 九州支部(福岡)

成蹊会には全国に六支部が設置され、当該地域在住の卒業生が支部会員となっている。会員数(六支部合せて約二、五〇〇名)は卒業生総数に比して少ないが、年に一、二回支部会が開かれている。

四 昭和四十九年度予算

1 一般会計

- (1) 歳入 一、七八七万円(うち会費収入一、五六二万円)
- (2) 歳出 一、七六二万円(事務費九〇四万円・事業費八五八万円)
- (3) 剰余金 二五五万円

本年度予算編成の基本方針は昨年度並の事業を実施すべく立案したが、昨今の物価高の影響をうけ、人件費、事務費、事業費ともに高騰し、約二〇%の支出増を余儀なくされた。一方歳入はその大宗

を占める会費収入が変らないため、期末剰余金は二五万円にとどまり財政は予断を許さない状況におかれている。

2 在校生会費特別会計

- (1) 歳入 一、四二七万円
- (2) 歳出 一、三八六万円（全額一般会計へ繰出）
- (3) 剰余金 四一万円

在校生からの会費積立金制度は昭和四十九年度から実施し、積立期間中の運用益金を加え大学卒業時に終身会費として一般会計へ繰出している。

3 育英奨学特別会計

- (1) 歳入 四一三万円（うち一五〇万円は一般会計より繰入）
- (2) 歳出 五〇〇万円（一般会計一五〇万円・特別会計三五〇万円）
- (3) 不足金 八七万円（繰越金より補填）

本年度は五〇〇万円の育英奨学金を支出するので、不足金八七万円は期首繰越金（決算額七二六万円）から補填する。なお奨学金は貸付金であるから本特別会計の資産として計上されている。

五 昭和四十九年度事業計画 予算額一、二〇八万円

- (1) 育英奨学金 五〇〇万円
本年度は育英奨学金を大幅に増額（前年度三四三万円）し大学院学生、学部学生、高校生六六名に貸与する。
- (2) 会員名簿 二九二万円
本会傘下の十一同窓会に、隔年おきに交互に名簿を発行している。本年度は旧制高校、大学政経学部、小学校、高校（新卒）の名簿を発行する。
- (3) 成蹊会誌 二九四万円
成蹊会誌第三九号・第四十号を発行し、会員の動静、寄稿を

掲載するとともに学園の近況を報告する。

(4) 後援金 一二二万円

教員研究助成金（二十万円） 同窓会（三十万円） 支部（十二万円） 学生団体（四十万円） 謝恩顕彰会（十万円） オーストラリア留学生（十万円） 等以後援金を支出する。特に本年度から教員の研究のための助成金制度を新設した。

(5) 成蹊クラブ

会員相互の親睦を図るため東京、有楽町のニュートーキョー七階に成蹊クラブを設置し会員の便宜に供している。また関西地区には好文倶楽部（国鉄大阪駅前第一生命ビル十二階）の法人会員となり関西成蹊クラブとして利用されている。

(6) 謝恩顕彰会

永年に亘り成蹊教育につくされた恩師に対し謝恩会を開き、併せて会員から寄せられたお祝金を贈呈している。昭和三十三年本事業開始以来今日まで六十五名の教職員を招待した。本年度は今秋、今井忍（経済学部）祖父江寛（工学部）土方辰三（文学部）加藤久幹（高校）の諸先生並びに島森鏡三郎氏（事務）をお招きする予定である。

六 資産 九、三八四万円（昭和四十九年三月底現在）

- 1 基本財産 五〇〇万円
- 2 運用財産 二、四二六万円
- 3 固定資産 三二万円
- 4 在校生会費 三八三万円
- 5 育英奨学 二、四八六万円
- 6 成蹊クラブ 三〇万円
- 負債 なし

七 育英奨学基金募集状況

昭和四十七年十月から開始された育英奨学基金募集運動は本年三月三十一日現在で一、〇八二万円に達している。引き続き募集中で

あるが、内訳は個人七五七万円（三〇三名）法人三二五万円（八社）となっている。成蹊会の育英奨学事業は昭和三十一年度から育英奨学金制度を設け、現在までの概要は次のとおり。

- 1 貸与金総額 一、一五六万円
- 2 預貯金・有価証券 一、〇九二万円
- 3 資産総計 二、二四八万円

諸外国の私学の例をまつまでもなく、育英奨学金の殆んどが卒業生並びに関係各企業からの浄財により運営されている実情を見聞するにつけても、是非諸兄姉のご後援を賜りたい。

八 会費改訂

昭和四十九年度一般会計の予算によると歳入（一、七八七万円）歳出（一、七六二万円）差引剰余金は二五万円、これを四十八年度（決算）剰余金三九七万円、同じく四十七年度五八八万円に比して激減している。歳入（一、七八七万円）の大半が、終身会費（一、五四五万円）であり、終身会費はその性質上繰延べ使用の要があるので、四十九年度以降の財政は憂慮すべき状態となる。この原因は狂乱物価による歳出増によるもので、今後も続くと考えねばならない。

右記理由により成蹊会財政を健全化するため今回次のとおり会費の改訂を余儀なくされたので、会員各位のご了承をお願いする次第である。

- 改正会費、終身会費 一三、〇〇〇円
 - 年会費 一、〇〇〇円
 - 現行会費、終身会費 一〇、〇〇〇円
 - 年会費 七〇〇円
- 右改訂に当って、去る五月二十七日開催の会員総会で定款の一部変更（会費の条項）を議決し、六月二十七日付をもって文部大臣の許可を受けている。

（成蹊会常務理事・旧高11回）

学士院恩賜賞（昭和四十九年度）

免疫グロブリンEの発見と

レアギン型アレルギー機序に関する研究

ジョンズ・ホプキンス大学教授 石坂 公成（旧高18回）
アレルギーとして一括される病気は、原因となる物質（アレルゲン）と特異的に結合する免疫グロブリンとの反応で起こることを、血清中の免疫グロブリンEを発見して明らかにした。授賞式は六月十日、天皇陛下をお迎えして、上野の学士院会館で行われ、陛下から記念品が贈られた。

なお昨年度の学士院恩賜賞には「極低温における稀薄磁性合金の電気抵抗の極少に関する研究」で近藤淳氏（旧高23回）が受賞され、重ねがさね名誉なことである。

中国（広島）成蹊会

去る三月二十日広島市堀川町のニュートーキョー広島店で第一回の中国成蹊会を開催いたしました。参加者は約三十名。東洋工業取締役の重見通雄（旧高4回）広島大学教授の奥田久徳（旧高20回）の両先輩を初め、下関市など遠方からの参加者もあり、会員の絶対数の少ない広島でこれだけの出席は大成功だったと言えます。ふとしたきっかけで「ひとつ広島でも成蹊会をやろうではないか」ということから、名簿から卒業生を捜し出しゼロから出発して、苦勞もありましたが、会員のご協力により約七十名を把握することができました。第二回の会合は九月下旬を予定しておりますから奮ってご参加のほどをお願いいたします。

連絡先 広島市霞一の二三 広島大学医学部奥田教室

奥田久徳あて（電話〇八二二五一一、一一一）

（坂元裕秋・経4回）

成蹊学園近況

一、成蹊学園の概況

大学においては昭和四十九年一月学長選挙が行なわれ、その結果、福与正治氏(文学部教授)が学長に選任され二月十五日付で学長に就任した。又、大学院の工学研究科情報処理専攻に博士課程を増設するため、昭和四十八年十一月文部大臣宛に申請していたが、三月二十八日付で承認された。

小学校においては独自のカリキュラムを編成して、それに伴う算数、国語、社会等の教科書を作成して教育内容の充実を図った。

又、初めて志賀高原寮において五年生の夏の学校を実施し、大自然の中における高学年の鍛練教育を行なった。

施設関係では中高特別教室としての造形館の増築及び高校図書室の増築を行なった。

又、老朽化のひどかった本館便所を一階から三階まで大改修すると共に窓枠もサッシに取替え一新した。以前から懸案であった桧並木の下水配管工事を実施し、給排水の完備をはかり、大学図書館を嵩上げして教員研究室の増設にも着手した。

このように教育環境の整備が一段とはかれた。

一方校外施設のうち箱根寮の食堂を増設(軽量鉄骨造平家建約六〇坪)し、夏の学校等箱根寮利用の上で大幅な改善がはかられた。

二、組織

□ 学校法人成蹊学園

○印卒業生

理事長	小笠原 光雄	三菱銀行相談役
専務理事	○丹 羽 孝三	
理事	○朝 倉 孝吉	成蹊大学経済学部長
	岩 崎 忠雄	三菱モンサント化成会長
	○岩 崎 寛弥	三菱銀行
	岡 野 保次郎	三菱重工業相談役
	賀 集 益藏	三菱レイヨン相談役
	笠 原 逸二	極東貿易相談役
	○栗 原 美能留	成蹊中学高等学校長
	○河 野 義克	成蹊大学政調査会理事長
	佐々木 昌義	成蹊大学文学部長
	○生 野 専吉	三井信託銀行社長
	高 杉 晋一	三菱電機相談役
	○高 山 英華	成蹊大学法学部部長
	橘 喬	成蹊大学名誉教授
	○谷 岡 喜久蔵	成蹊会常務理事
	野 村 純三	成蹊小学校長
	○福 井 純一	博報堂社長
	堀 田 正治	成蹊大学長
	松 尾 登	成蹊大学工学部長

□ 成蹊学園

成蹊大学

学 長	福 与 正 治
経済学部長	朝 倉 孝 吉
工学部長	松 尾 昌 義
文学部長	佐々木 昌 義
法学部長	橘 喬
成蹊高等学校長	栗 原 美能留
成蹊中学校長	吉 崎 恵 次
成蹊小学校長	土 方 敏 夫
事務部長	野 村 純 三
学園総務部長	国 分 勇 雄
学園経理部長	鷺 山 要
大学事務部長(兼)	鷺 山 要

三、教職員及び在学生数(昭和四十九年五月一日現在)

所 属	教 職 員 数			在 学 生 数		
	専 任	非常勤	計	男	女	計
大 学	経済学部	45	49	94	1701(13)	133(0) 1834(13)
	工学部	99	53	152	1060(54)	34(0) 1094(54)
	文学部	40	66	106	409(7)	1403(9) 1812(16)
	法学部	37	48	85	1377(14)	160(0) 1537(14)
	小 計	221	216	437	4547(88)	1730(9) 6277(97)
高 等 学 校	51	17	68	667	412	1079
中 学 校	37	6	43	526	268	794
小 学 校	29	0	29	453	290	743
国 際 特 別 学 級	4	13	17	26	13	39
養 護 教 諭	6		6			
事務・技術・労務職員	220	3	223			
合 計	568	255	823	6219	2713	8932

(注) ()内数字は大学院学生数

卒業生総数		343	大 学 名	入学者数	大 学 名	入学者数
進 学 者 数		282				
進学者 内 訳	成蹊大学	204 (推薦201)	慶 応 大 学	13	玉 川 大 学	1
	国公立大学	13	上 智 大 学	4	東 京 農 業 大 学	1
	私立大学	59	日 本 大 学	3	明 治 大 学	1
	短期大学外	6	東 京 医 科 大 学	3	大 東 文 化 大 学	1
そ の 他		61	東 京 女 子 大 学	2	白 百 合 女 子 大 学	1
大 学 名		入学者数	立 教 大 学	2	清 泉 女 子 大 学	1
成蹊大学	経済学部	93	学 習 院 大 学	2	東 京 理 科 大 学	1
	工学部	29	亜 細 亜 大 学	2	東 京 電 機 大 学	1
	文学部	34	早 稲 田 大 学	1	明 治 薬 科 大 学	1
	法学部	48	武蔵野美術大学	1	東 北 歯 科 大 学	1
北海道大学 東京農工大学 東京大学 東京外国語大学 お茶の水女子大学 東京芸術大学		3	武蔵野音楽大学	1	鶴 見 大 学	1
		3	杏 林 大 学	1	慈 恵 医 科 大 学	1
		2	女 子 医 科 大 学	1	岩 手 医 科 大 学	1
		2	東 海 大 学	1	日 本 獣 医 科 大 学	1
		1	成 城 大 学	1	女 子 栄 養 大 学	1
		1	独 協 大 学	1	聖 マ リ ヤ 医 科 大 学	1
		1	国 際 基 督 教 大 学	1	東 邦 大 学	1
		1	同 志 社 大 学	1	昭 和 大 学	1

六 高等学校卒業生の主な進学先 (昭和四十九年現在)

学 校	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学手続完了者数	内部進学数	入学手続完了者数
大 学	経済学部	300	4,175	3,991	669	406	499
	工学部	200	2,437	2,143	445	268	297
	文学部	300	3,961	3,414	803	468	502
	法学部	300	5,426	5,083	652	350	398
	計	1,100	15,999	14,622	2,569	1,492	1,696
高等学校		100	554	519	148	125	398
中学校		130	449	442	133	132	267
小学校		120	560	480	130	130	130
合 計		1,450	17,562	16,063	2,980	1,879	2,491

(注) 高, 中, 小学校の合格者数および手続完了者は補欠を含む

四 昭和四十九年度入学試験状況

() は女子の内数

研究科 学部	大 学 院						学 部				計	
	工学研 究 科	経済学 学 科	法学政 治 学	文学 学 科	経営 学 科							
	博士	修士	修士	修士	修士	経	工	文	法			
進 学	大 学 院	0	3	0	1	0	0	1	19	7(4)	2	33(4)
	学士入学	0	0	0	0	0	0	0	4	1	7	12
	研 究 生	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2
	留 学	0	1	0	0	0	0	0	4	0	0	5
学	小 計	0	4	0	1	0	0	2	28	8(4)	9	52(4)
就 職	就 職 者	0	15	3	32(1)	1	315(7)	221(5)	276(179)	238(18)	1074(210)	
	就 職 率	0	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
職	小 計	0	15	3	32(1)	1	315(7)	221(5)	276(179)	238(18)	1074(210)	
そ の 他	家業手伝	0	0	0	0	3(3)	0	23(2)	5	10(3)	26(1)	67(9)
	家事手伝	0	0	0	0	0	0	6(6)	0	55(55)	15(15)	76(76)
	そ の 他	0	0	0	0	0	4	19	3	35(18)	27	88(18)
	小 計	0	0	0	0	3(3)	4	48(8)	8	100(76)	68(16)	231(103)
計	0	19	3	45(4)	5	365(15)	257(5)	384(259)	315(34)	1357(317)		

五 大学生の就職進学等 (昭和四十九年三月三十一日現在)

一 会 議

成蹊会近況

自昭和四十八年十一月一日
至昭和四十九年五月三十一日

○理事会

(1) 第二回理事会 (十二月十四日)

(イ) 成蹊学園評議員選任の件

(2) 第三回理事会 (三月二十八日)

(イ) 社団法人成蹊会定款の一部変更の件

(イ) 昭和四十九年度事業計画及び収支予算案承認の件

(イ) 昭和四十八年度事業報告及び収支決算並びに剰余金処分案承認の件

(イ) 財産目録 (昭和四十九年三月三十一日現在) 承認の件

(イ) 特別会員推薦の件

(イ) 謝恩顕彰会開催の件

(イ) 謝恩顕彰会開催の件

(イ) 謝恩顕彰会開催の件

(イ) 謝恩顕彰会開催の件

(イ) 謝恩顕彰会開催の件

(イ) 謝恩顕彰会開催の件

(イ) 謝恩顕彰会開催の件

(イ) 謝恩顕彰会開催の件

(イ) 謝恩顕彰会開催の件

(イ) 謝恩顕彰会開催の件

(イ) 謝恩顕彰会開催の件

(イ) 謝恩顕彰会開催の件

(イ) 謝恩顕彰会開催の件

(イ) 謝恩顕彰会開催の件

承認の件

- (ロ) 財産目録(昭和四十九年三月三十一日現在) 承認の件
- (ハ) 昭和四十九年度事業計画及び収支予算案承認の件
- (ニ) 社団法人成蹊会定款の一部変更の件

○特別委員会

- (1) 財務委員会(五月七日)

- (イ) 昭和四十八年度財務報告の件

- (ロ) 資産運用の件(諮問事項)

- (2) 成蹊クラブ運営委員会(五月八日)

- (イ) 昭和四十八年度成蹊クラブ事業報告の件

- (3) 育英奨学委員会(五月九日)

- (イ) 育英奨学基金募集報告の件

- (ロ) 昭和四十八年度育英奨学事業報告の件

- (ハ) 昭和四十九年度育英奨学事業計画の件

○支部会

- (1) 東海支部会(一月十六日・名古屋)

○同窓会

- (1) 実務学校総会(十一月十六日)

- (2) やよい会(女学校)委員会(十一月二十三日)

- (3) 経済学部同窓会総会(十一月二十三日)

- (4) 工学部同窓会総会(十一月二十三日)

- (5) 法学部同窓会総会(十一月二十三日)

- (6) 文学部同窓会総会(十一月二十五日)

- (7) 文学部委員会(十二月八日)

お祝金 一二五、〇〇〇円

応募者 七九名

○枯林忌(三月二十三日)

成蹊学園創立者中村春二(枯林)先生の墓参りと追悼会

○刊行物

- (1) 成蹊会誌第三十八号 六三頁(十一月一日)

- (2) 役員名簿 一〇頁(十一月一日)

- (3) 池袋同窓会名簿 二四頁(十一月一日)

- (4) やよい会名簿 二四頁(十一月一日)

- (5) 経済学部卒業生名簿 二六頁(十一月一日)

- (6) 経済学部卒業生名簿 二六頁(十一月一日)

- (7) 文学部卒業生名簿 五九頁(十一月一日)

- (8) 工学部卒業生名簿 六二頁(十一月一日)

- (9) 工学部卒業生名簿 六二頁(十一月一日)

- (10) 高校新卒業生名簿 一〇頁(十一月一日)

- (1) 学生団体後援金 金 一九一、一八〇円(高校三件・大学五件)

- (2) オーストラリア留学生(二月十三日) 金 一〇〇、〇〇〇円(高校)

四 寄付金

- (1) 育英奨学基金

八、二九五、〇〇〇円(成蹊会誌第37号・第38号既報分)

四、四一七、五〇〇円(新規・氏名は別記芳名録参照)

累計 一二、七二二、五〇〇円

- (8) 工学部委員会(十二月十二日)

- (9) 池袋同窓会(二月二十三日)

二 人 事

○特別会員(教職員)(五月十三日・理事会)

新任教職員 十三名 ○印卒業生

経済学部 厚見 博(教授) 徳谷 昌男(助教授)

工学部 米山 三明(講師) 尾崎 義治(助教授)

文学部 古谷 真介(講師) 尾崎 義治(助教授)

文学部 前田 透(教授)

法学部 加藤 節(講師)

高等学校 青木 正典(講師) 佐藤 幸夫(講師)

中学校 丸山 嘉夫(教授) 吉田 弘一(教授)

小学校 吉川 五男(教授) 薄倉美穂子(講師)

旧教職員 七名(在職期間満十年以上の退任教職員)

経済学部 今井 忍(教授)

工学部 祖父江 寛(教授)

高等学校 荒井 信一(教授) 藤平 恒三(教授)

小学校 船越 経三(教授) 柳井 吉英(教授)

小学校 堀内 輝三(教授)

三 事 業

○第十五回恩師謝恩顕彰会(十一月一日)

久野陸夫先生(七十二歳)

物 故 会 員

(昭和四十八年十一月一日)

木村健康(特別会員)	昭和四十八年十一月七日
丸山 鋭雄(特別会員)	昭和四十九年一月三十日
辻 頼二(実務)	昭和四十九年一月十五日
永田龍之助(中学)	昭和四十九年二月二日
吉川 五六(専門)	昭和四十九年二月二日
井上 秀一(中学)	昭和四十九年二月二日
坂下 栄剛(特別)	昭和四十九年二月二日
清宮 道信(旧高)	昭和四十九年二月二日
原 健忠(中)	昭和四十九年四月二十三日
芹沢由紀子(文)	昭和四十九年五月九日
木村源二郎(特別)	昭和四十九年五月二十六日
風戸 裕(経)	昭和四十九年六月二日
大野 虎雄(専門)	昭和三十九年九月三十日
三ツ木 秀雄(実務)	昭和四十六年二月七日
石川 通司(専門)	昭和四十六年
吉村 悦三(専門)	昭和四十六年
黒田 秀子(文)	昭和四十六年
安田 薫(専門)	昭和四十六年
安田 松子(女)	昭和四十八年三月九日
華沢 厚太郎(高)	昭和四十八年五月十七日
山本 忠雄(中学)	昭和四十八年五月十七日
安部 昇太郎(実務)	昭和四十八年九月三日
鈴木 清一(実務)	昭和四十八年十一月二十九日
川崎 三蔵(実務)	昭和四十八年十一月二十九日
永田 治郎(実務)	昭和四十八年十一月二十九日
久保 賢(実務)	昭和四十八年十一月二十九日